



5月第2日曜日は、母の日。  
6月第3日曜日は、父の日。  
7月の第4日曜日は  
**親子の日**



<2019年7月28日「親子の日」スーパーフォトセッション終了後の記念写真>

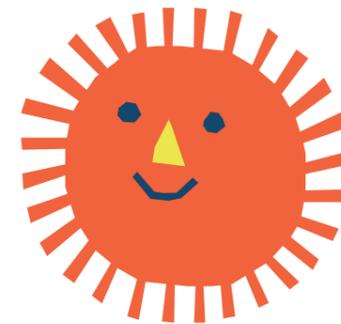
◆井上実佳◆井上佳子◆石原繁◆猪股敏郎◆岩上円香◆遠藤香織◆梶原美紀  
◆加藤崇寛◆岸俊一◆久野登志春◆黒澤祐季◆倉本真紀◆河野任慶◆河野由良  
◆紺屋留美◆後藤マリヤ◆櫻井武司◆櫻井健太◆佐藤菜津子◆沢田節子◆志喜屋  
秀壮◆関智◆関宴子◆関ひばり◆高須尚史◆田中 勇樹◆滝村 雅晴◆辻村春菜  
◆手塚俊兵◆手塚百音◆中村克己◆長塚かおる◆林幸一郎◆樋貝吉郎◆樋貝美紀  
◆古河雄太◆BRUCE OSBORN◆福地大亮◆福原 弥生◆福原 義久◆松井 博司  
◆松浦 有◆松岡洋介◆松崎稔◆宮庄宏明◆柚木公奈 (五十音順/敬称略)

— ご協力いただきましたみなさま、一年間本当にありがとうございました —

2020年の「親子の日」は  
7月26日です!



7月の第4日曜日は  
**親子の日**  
2019年  
活動報告書



今年で「親子の日」は17回目!

**親子の日**



年に1度、親と子がともに向かい合う日があったっていい。  
その日を通じて、すべての親子の絆が強められたら素晴らしい。  
そんな願いを込めて、7月の第4日曜日を  
「親子の日」にしたいと私たちは考えました。  
2019年は、7月28日が「親子の日」でした。  
みなさまからのご協力をいただき、  
親と子の距離がぐっと縮まる数々のイベントを開催し、  
多くの共感をいただくことができました。

~present to the future~  
「親子の日」は、あなたと育てる「未来への贈物」です!

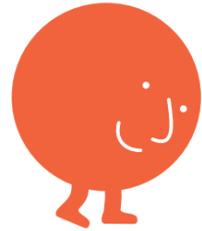
© Photo: BRUCE OSBORN / OZONE INC. Illustration: YUNA OSBORN Design: SETSUHO SAWADA



親子の日普及推進委員会 [www.oyako.org](http://www.oyako.org)

「親子の日」は、あなたと育てる「未来への贈物」です！

~present to the future~



5月第2日曜日は、母の日。

6月第3日曜日は、父の日。

7月の第4日曜日は

**親子の日**



『生まれて初めて出会う「親」と「子」の関係を見つめることは、家族、地域、社会、そして自然をも含むすべての「環境」に敬意をはらい、平和を願うこと』という思いを込めて、2003年に「親子の日」のオリジネーター、米国人写真家ブルース・オズボーンは、7月の第4日曜日を「親子の日」にと提唱しました。その理念に共感した友人たちによって「世界中の誰もが生まれてきたことを喜べる世界の実現」への願いを込めて、親子の日普及推進委員会が発足しました。2019年も、「親子の日」を定着するために多くのイベントを実施。非常に成果のあった一年でした。

ブルース・オズボーンの理念と私達の願いを少しでも多くの人たちに届けたいという思いが具体化し、念願だった海外での展覧会や写真撮影会も実現。一昨年前に授与した東久邇宮文化褒賞に続き、海外では親子写真への高い評価を得、「親子の日」を多くの人に知っていただくことができました。

「未来への贈物~ present to the future~」というスローガンに表わされているように、「親子の日」に込めた思いは、きっと未来への宝物になると信じています。今後も「親子の日」の普及活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

親子の日普及推進委員会  
<http://www.oyako.org>



「親子の日」の普及推進にあたって、2019年度は右記の企業と団体のご協力をいただきました

●特別協賛

**OLYMPUS** オリンパス株式会社

**oticon** PEOPLE FIRST  
オーティコン補聴器

**DAC** Group DACグループ

●特別協力

毎日新聞 毎日新聞社

**TSUTAYA** 株式会社 TSUTAYA

●協力

株式会社円谷プロダクション／お母さん業界新聞／株式会社琉球補聴器  
協同組合日本写真館協会／公益社団法人写真協会／株式会社日比谷花壇  
日本外国特派員協会／一般社団法人日本写真文化協会／株式会社浪漫堂  
株式会社オゾン

●後援

J-WAVE

●Special thanks

滋賀県米原市／石川県珠洲市／山口県下松市／愛知県児童総合センター  
SPACEPORT Inc.／東京YMCA"liby"／BBスタジオ広尾／HEARTFUL PHOTO  
下松商業開発株式会社／一般社団法人日本記念日協会／株式会社山田製油  
岩下食品株式会社／DEAD STOCK UNION／surfers／Have Some Fun  
NPO法人スーパーダディ協会(SDA)／CREATORS' LOUNGE／OQTA株式会社  
CHAN-MIKA／Shonan Beach FM／InterFM／横浜エフエム



「親子の日」の活動では、グリーン電力(1,000KW)を利用しています

今年九州の阿蘇くじゅう国立公園の黒岩山麓に位置する九重地熱発電所を使用しました



7月の第4日曜日は  
**親子の日**



スーパーフォトセッション 2019

「親子の日」当日のメインイベントとして17回目となる「スーパーフォトセッション」には、今年も全国から多数の応募者がありました。公式サイトからの応募以外に、各協賛企業からの推薦者、雑誌やラジオを通じての公募など、撮影希望者は年々増加の一途をたどっています。手際良いボランティアスタッフのサポートで、100組の親子の撮影は順調に進行。撮影した写真から1枚をセレクトしプリント。後日各親子に送付されました。それぞれの写真は公式サイトで発表。オリンパスギャラリーでは展覧会が行われました。近年、撮影会には遠方からの参加者も多く、久しぶりに親子が会える夏のイベントとしても喜んでいただいています。



▲賑やかな日曜日のBBスタジオ。楽しい風景が9時からスタートします



▲受付が済むと、メッセージカードへの記入や「親子大賞」の投票など楽しく過ごしていただけます



\*笑顔があふれる撮影スタジオ



撮影/宮庄宏明 (オリンパス株式会社)

インターネット動画ライブ配信

「親子の日」当日、撮影スタジオとなったBBスタジオ広尾にインターネット放送局を開設し、中継を行いました。会場に来られない人のためにも「親子の日」の活動に触れてもらえる機会となっています。 MC: 関智



写真コンテスト 2019

オリンパスが運営する写真投稿コミュニティサイト「FotoPus (フォトパス)」をプラットフォームとして運営した写真コンテストには、598点の応募がありました。毎日新聞社において厳選な審査を行なった結果16点の作品が受賞。グランプリ(1名)に選ばれた馬場歩さんには特別協賛企業のオリンパスからミラーレス一眼OM-D-E-M10 Mark III ボディー + M.ZUIKO DIGITAL ED 14-42mm F3.5-5.6 EZ が贈られました。オリンパス賞(2名)は防水タフカメラ Stylus TG-4 Tough、オーディコン みみとも賞(3名)はゼンハイザー ヘッドホン HD65 TV、DAC NIKI Hills 賞(1名)はコンポート詰め合わせセット、毎日新聞社賞(3名)はMOTTAINAI オーガニックハンカチセット、円谷プロ賞(1名)は劇場版 ウルトラマンジード つなぐぜ! 願い!! Blu-ray 特装限定版、「親子の日」賞(5名)は「親子の日」オリジナルグッズが、それぞれの受賞者にも証書とともに贈られました。



グランプリ



馬場歩「JUMP！」

エッセイコンテスト 2019

応募があった476人の中から入選作品として選ばれたのは16名。グランプリに選ばれた丸山ゆかりさんには特別協賛企業のオーディコンからゼンハイザー MOMENTUM True Wireless が贈られました。オーディコンみみとも賞(3名)にはゼンハイザーヘッドホン HD 4.40 BT、毎日新聞社賞(3名)にはMOTTAINAI キャンペーングッズ、TSUTAYA 賞(1名)にはオリジナルフォトブック、円谷プロ賞(1名)には『劇場版ウルトラマンR/B セレクト! 絆のクリスタル』Blu-ray 特装限定版、スマホで鳴らせる鳩時計賞(1名)には鳩時計、「親子の日」賞(5名)には「親子の日」オリジナルグッズが証書とともに各受賞者にも贈られました。学校単位の応募や海外に住む方からの応募が増えたこと、若い人たちからたくさんの作品が送られてきたこともあり、背景や環境の異なるバラエティーに富んだ作品が集まりました。



グランプリ

丸山ゆかり「パパ目線」

親子大賞 2019

13回目を迎えた「親子大賞2019」の栄冠に輝いたのは俳優の奥田瑛二とさくら親子! お二人には親子の日普及推進委員会から証書と副賞を贈呈いたしました。

＜奥田瑛二さんからのメッセージ＞  
「親子大賞2019」誠にありがとうございます。俳優として映画監督として輝くか。それを軸に人生輝くか…このたび輝いている親子に選出していただいたことで大きな力をいただきました。「親子の日」万歳!



今年10年目の親子大賞!!  
これもうまいです。  
ありがとうございます。  
親子大賞。父の関わりは、  
お深く、強く、とても大切に。  
変化の世に感じています。  
これからも大切にしていきたいです。  
安藤サクラ

\*安藤サクラさんからいただいた自筆のメッセージ



# 親子の日 2019 スーパーフォトセッションで撮影した写真から抜粋

掲載文は応募の動機★テキストと写真は直接関係ありません

スーパーフォトセッション当日に撮影した写真の一部と、撮影会に参加するために送っていただいた応募の動機からの抜粋です。ステキな時間を一緒に過ごして下さったみなさまへの感謝を込めてここに紹介します。



＊ 頸椎の病が原因で歩行困難状態だった父が、昨年暮れの外出中に交通事故にあってしまいました。今までは足が不自由でも自転車で少しは遠出ができたのですが、それも出来なくなってしまいます。家にいることが増えていきました。認知症を発症してしまったのもそんなことに原因があったかもしれませんが、今は、1年後にどんな状態にいるかも想像できません。母を4年前に病気で亡くして寂しかった私でしたが、それ以上に力を落としてしまった父の心を癒してあげたいと思って応募しました。



＊ 以前、ブルースさんに撮影していただいた写真は我が家の宝物です。その後、ご縁のあった方と結婚したり職場が変わったりして、いろいろな変化があったので、「この前とは違った親子写真になるのかな〜?!」と応募致しました。熱気に満ちあふれたスタジオの様子など、記憶に残る最高の思い出を、今年の夏もまた味わいたいと思っています。



＊ 中学を卒業した息子の登校拒否が始まって2年。思春期の息子と向き合う日々の中で、必然的に親子の会話も増え、音楽や文学や美術の話をしたり、時には一緒に旅に出たり、実は大切に贅沢な時を過ごしています。そんな私と息子との今のだじな瞬間を記録したいと思っていたところに出逢ったこの素敵な企画。迷わずに応募致しました。



＊ 還暦を迎え体の衰えには自分でもびっくりしています。孫達と遊ぶ楽しい計画を想像しながら、あと何回こんな楽しい夏休みを過ごすことができるのだろうか…?と、ふと不安になってしまいました。来年は? 5年後は? もしかしら10年後には一緒に過ごすことはないかもしれません。子供の成長もさることながら、自分の健康もたいへん気がかりで、そう思うと子供たちと一緒にいる時間がとても愛おしく思えてきました。そんな微妙な思いの還暦の夏の親子写真を撮ってもらえたら嬉しいです。

＊ 覚悟の上で決めたシングルマザーという選択。楽しいことも苦しいことも迷いも悩みも、そして喜びもいっぱいあります。自分で選んだこの生き方を、やがて息子に伝える日がくるはず。その時は誇りを持って話ができるように…今の私たちの写真を撮っていただきたいと思って応募しました。



＊ 私と父の2人で以前参加させていただき、スタジオで思いっきり楽しんだ強烈な思い出が今でも脳裏に鮮明に焼き付いています。その後親元を離れ、兄弟姉妹も住んでいる場所がバラバラになり、家族みんなで集まる機会は極端に少なくなってしまいました。両親は皺や白髪が増え、私たちもそれぞれ仕事に追われる毎日。「親子の日」にはみんなでスタジオに集合して私たち親子の絆を確かめたいと思って応募しました。



＊ 長男が難病にかかったことをきっかけに、健康の大切さを痛感。8年前から、家族が共有する時間を大事にする生活に切り替えました。命を授かったことへの感謝も、息子の病気がきっかけでさらに深まったように思います。悲しい出来事を前向きな力に変えて日々がんばる私たちの姿をぜひ記録して欲しいと思います。「親子の日」には家族みんなで揃ってスタジオに行き、オズボーンさんのカメラの前でガッツポーズをしたいです。



＊ 「親子の絆が何よりも大事」と言っていた父が他界してから既に5年。ケアハウスで生活する母は今年で90歳になり、還暦を過ぎた私は自分の体調に気を揉むだけの日々です。父の教えを十分に守れないと痛感し後ろめたい気持ちの毎日ですけど、親子写真撮影会のことを友人から聞いて、早速手紙を出すことにいたしました。私は今年62歳。会社の検診で癌が見つかり近く手術を受けることになりました。参加できれば、母と2人、久しぶりにでかけて、父の教えを写真に撮っていただきたいと思っています。

＊ 事業の失敗が原因で働きに出ることになった元専業主婦の私ですが…今は、職場での経験や会社勤めをしたからこそ出会えた人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。こんな風に前向きになれたのは、経済的な苦しみで挫折しそうになった時にも無邪気だった我が子のおかげ。どれほど感謝してもきれません。最近少しだけ経済的にも余裕ができたからかもしれません、これからも温かい家庭を守りながら、子どものために頑張りたいと思っています。この企画への参加を希望します。



＊ 娘の誕生によって、自分たちの成長するチャンスを与えられました。驚くほど早い娘の成長にはとっっても追いつけませんが、一生懸命、娘と一緒にこれからも成長を続けたいと考えています。「スーパーフォトセッション」で、今年の私たちを写真に撮っていただき、これから親子の成長の記録史を作りたいと思っています。参加できれば、「親子の日」のサイトで見生き生きたみんなの表情のように、私たちも、オズボーンマジックにかかってみたいです。



＊ 仲が悪いわけではありませんが、お互いシャイなせいか普段は口数が少ない親子です。昨年、とある出来事で私がひどく落ち込んでいる時に、父が昔ふたりで撮った写真を送って優しく励ましてくれました。とても嬉しかったのと同時に、いつも撮影役の父は、旅行などに出かけてもシャッターを切る人。「お父さんとのツーショットってほとんどないかも…」と、ちょっぴり寂しい気持ちにもなりました。昨年結婚して、ますます接する機会が少なくなっているこの頃。「親子の日」の撮影イベントで、素敵なツーショットを残したいと思っています。



＊ 先日アメリカで、オズボーンさんの写真を展示してある写真展に行ってきました。会場を訪れている皆さんがすごく嬉しそうなお顔で写真を見ていて、自分ごとのようになんだか誇らしい気がしました。「OYAKO」というテーマの写真が異国の地で活躍してる。オズボーンさんのメッセージに書いてあったように「OYAKO」は世界の共通語です。帰ってきたら、「親子の日スーパーフォトセッション」の公募が始まっていたので、早速申し込みました。我が家の親子写真も、「親子の日」が発信する平和のメッセージに役買って欲しいので、ぜひ「親子の日」の撮影会に招待してください。



＊ 先月、母方の祖母が亡くなった時に、言葉がなくても通じる親子の強い力を感じました。私自身も、最近待望の赤ちゃんを授かり母親になったこともあって、親子について考える機会が増え、新聞で読んだ「親子の日」に行われるという撮影イベントに興味を持ちました。母と、私と子供が並んだらどんな姿が映るのか? 何が写るのか。見てみたいです。

## オリンパス株式会社

親子の日普及推進委員会の活動を特別協賛企業としてご支援いただき 16 年目となるオリンパス株式会社からは、2019 年も、親子の日普及推進委員会の活動支援に多くのご尽力をいただきました。特に、「親子の日」当日の「スーパーフォトセッション」には、ボランティアの一員として社員が参加し、会場運営に力を貸してくださいました。15 回目を迎えたオリンパスギャラリー東京での写真展〈親子の日 2019 ～「親子の日」に出会った親子～・9 月 13 日～18 日〉にご来場者いただいたみなさまからは温かいコメントをたくさんいただき、今後の活動へのパワーとなりました。写真展の初日にはトークショーを実施。ゲストには、「親子」写真誕生のきっかけを作ってくださった、ミュージシャンであり音楽プロデューサーのエスケンさんを迎えて、普段なかなか聞く機会のない「親子」シリーズにまつわる秘話の数々を聞くことができました。オリンパス株式会社運営の写真投稿コミュニティサイト「FotoPus(フォトパス)」をプラットフォームとして行った写真コンテストには、今年もたくさんの優れた作品が集まり「親子の日」が広く浸透していることを改めて実感いたしました。



▲連日たくさん親子連れや写真愛好家の方達が訪れて賑やかで楽しく展示会場でした



▲オリンパスギャラリーオープニングレセプションの様子



▲ブルース・オズボーンが来日当日に出会えさまざまな創作活動と一緒にしたこともある沼田元氣氏もトークショーにサプライズで参加。「親子」写真シリーズに取り組む前の懐かしい話を披露していただきました



▲オリンパス本社ショールームに併設されたクリエイティブウォールには写真館協会会員の親子写真が展示されました



## オーティコン補聴器

特別協賛企業として今年で 9 年目となるオーティコン補聴器は協賛事業内容を拡大。沖縄での親子プロジェクトに加え、写真館とのコラボレーション撮影イベントを実施。マルチに「親子の日」普及のための応援してくださいました。全国の販売代理店を通じて「親子の日」撮影イベントに 5 組の親子を招待する「みみとも親子ツアー」はすっかり恒例となりました。

沖縄に本社を持つ株式会社琉球補聴器主催の親子の写真展と親子の撮影会は今年で 7 回目。この撮影会への応募者の数も年々増加して、「親子の日」の認知度は大きく広がっています。写真展は 10 月 16 日～20 日までの 5 日間、沖縄県立美術館 県民ギャラリーで実施。撮影会は 11 月 24 日に豊見城市にある ちゅら SUN ビーチで、沖縄在住の親子 33 組を招待して実施いたしました。イベントの様子は沖縄の TV や新聞のニュースを通じて沖縄の人たちに知っていただくことができました。

写真展のオープニングレセプションでは、鳩間島出身の沖縄民謡歌手、鳩間加奈子・俊介夫妻がステージに登場。息のあった演奏で展示会のスタートを祝ってくださいました。



\*「沖縄の親子の日」のイベント告知チラシ



\*撮影会終了後。スタッフ全員集合の撮影会



\*オープニングレセプションの会場風景



沖縄県立美術館 県民ギャラリーでの展示風景 ▶

## DAC グループ

2013 年からの特別協賛企業として「親子の日」普及推進のお手伝いをしてくださっている DAC グループは、今年で第 7 回となる一般社団法人 DAC 未来サポート文化事業団（略称：みらさぼ）主催の「みらさぼ絵画・作文コンクール」を実施。文部科学省の後援を受け、「親子の絆」「冒険・チャレンジ」をテーマに、全国の中学生と小学生から作文と絵画を募集。約 730 件の応募をいただき、受賞者には副賞として親子旅行などが贈られました。同時開催として、「ぼくとわたしのチャレンジ」をテーマに Instagram フォトコンテストを実施。多世代の方々から約 1800 件もの写真が寄せられ、多くの親子の絆・チャレンジに触れる機会となりました。



▲「一般社団法人 DAC 未来サポート文化事業団」イベント告知



\*「ぼくとわたしのチャレンジ」コンクール グラフィック受賞作品



▲フォトコンテストを Instagram で公募



## 毎日新聞社

特別協力として応援してくださっている毎日新聞社が「親子インタビュー」の特集記事を展開して下さるようになってから13年目になります。2019年の「親子の日」当日の朝刊に登場したのは、本シリーズ初回に登場いただいた野村万作+野村萬斎親子。時間とともに変わるものと変わらないものがお2人の姿に投影されて印象的な記事となりました。TSUTAYAとの共同企画「親子をつなぐこの一冊」は、毎月掲載され「親子の日」普及の新しい指標となりつつあります。



▲親子インタビュー／野村万作×野村萬斎親子  
掲載日：7月28日「親子の日」



▲「親子写真まつり」



▲TSUTAYA 書店のコンシェルジュによるコラム「親子をつなぐこの一冊」が紙面で紹介



▲「親子大賞」の告知情報



▲写真館参加企画「親子の日には写真館へ」の告知は全国の紙面で展開

## 株式会社 TSUTAYA

日頃なかなか言葉にして伝えられない想いを「一冊の本」に込めて贈る新しい習慣の提案として、今年も7月1日より、「親子の日」に本を贈ろうフェアを実施。TSUTAYA、蔦屋書店、TSUTAYA BOOKSTORE、旭屋書店、多田屋、BOOKS えみたす、双子のライオン堂など、全国で約900書店が参加しました。7月23日には、代官山の蔦屋書店でPRイベントを実施。エッセイストの安藤和津氏がゲストとして登壇。子供にとって本が果たす役割やご自身の子育て経験談など興味深いお話を耳を傾けました。



◀ 二子玉川の蔦屋家電での展示風景とトークショーの様子



▲「親子の日には本を送ろうキャンペーン」のブックカバーやしおりをお客様に配布



▲キャンペーンの応援に駆けつけてくださった安藤和津さんのショット

## お母さん業界新聞

全国で10万人の読者を持つお母さん業界新聞は、「スーパーフォトセッション」で撮影した親子写真を毎号の表紙として掲載。表紙を飾ったそれぞれの親子へのインタビューは、読み物として読者の共感を広くいただいています。



▲「お母さん業界新聞」表紙

▲「親子の日」の公式サイトにも掲載

## J-WAVE

### 「STAR WARS DAY TOKYO 2019」

#### — 特別親子撮影会 / 5月4日

公開42周年を祝う「スター・ウォーズの日」祭典当日、「親子の日」後援企業 J-WAVE 提供のイベント「STAR WARS DAY TOKYO 2019」が、六本木ヒルズアリーナ（東京都港区）で実施されました。イベント会場内には映画のキャラクターたちと一緒に親子写真を撮るスペシャルフォトスポットが設けられ、抽選で選ばれた20組の親子にとっては夢のような写真撮影会が催されました。



## 株式会社円谷プロダクション

年間を通じて行われる多種多様なイベントで、多くの年齢層に向け「親子の日」のプロモーションをしていただいています。会員向けのカレンダーに「親子の日」と掲載するなど、「親子の日」認知向上にも大きな力を貸していただきました。



## 株式会社日比谷花壇

「親子の日」のシンボル花となった「ヒマワリ」が、株式会社日比谷花壇から「スーパーフォトセッション」や各イベント会場に届き、参加者に喜んでいただくことができました。次年度への展開も楽しみです。



7月の第4日曜日は  
親子の日

## 協同組合日本写真館協会

今年「親子の日には写真館へ」というキャンペーンに参加した写真館は47店舗でした。

参加した写真館の写真から選んだ21点は、9月13日～18日にオリンパス東京本社のショールーム内にあるクリエイティブウォールに展示。展示作品の撮影者に「親子写真マイスター」が授与されました。



「親子の日には写真館へ！」実施の写真館からWEB情報掲載の連絡がきました



▲ Saito Studio



▲ ヒロシフォト



▲ Kamata Photo Studio



▲ 谷写真館



▲ ホリ写真館



▲ Yoshida Photo Studio



▲ オウチ写真館



▲ Star Maker Studio



▲ 上野写真館



▲ ヤマダフォトスタジオ



▲ 矢吹写真館



▲ 高島屋写真館



▲ 奥田写真館



▲ 藤井写真館



▲ 杉本写真場



▲ Fukui Photo Studio



▲ 隔月で発行される「サ・写真館」に「親子の日使」を掲載



▲ 第13回日本写真館コンテストにて「親子の日普及推進委員会賞」は、立岡写真館の藤居美紀様の写真に決定。藤居様には審査委員のブルース・オズボーンから賞状と副賞が贈呈されました

## 各自治体の事業

### ◆ 葉山芸術祭 \* 神奈川県葉山町 / 4月27日～5月19日

葉山芸術祭実行委員会主催のイベントに参加。町内にある森戸神社境内に「親子まつり」というタイトルの作品を展示しました。葉山のアーティストで結成された「葉山 ART WALK」のメンバーの一員として玉蔵院と有形文化財「旧東伏見邸」にも作品を展示。会場を訪れた多くの人たちから「親子の日」への関心を寄せていただきました。



▲ 有形文化財「旧東伏見邸」の展示風景



▲ 葉山芸術祭の会期中に親子の撮影会も実施



▲ 葉山芸術祭は今年27回目を迎えました



▲ 親子写真を展示した超大型パネル

### ◆ 「家族の嬉しい顔」撮影イベント \* 愛知県長久手市 / 5月1日～6日

愛知県児童総合センター(愛・地球博跡地)が2007年以来実施しているイベントは、セルフタイマーで撮影する「家族の嬉しい顔」撮影イベント。後日、公式サイトとSNSで展覧会も実施されました。



### ◆ くだまつ親子の日2019フェスタ

#### \* 山口県下松市 / 7月28日

市制施行80周年を迎えた下松市は、どこの市町村よりも早い2013年に「親子の日」を公式制定し条例化された市です。今年も「親子の日」当日に、市民交流拠点施設の「ほしらんどくだまつ」において、町をあげてのイベントが数々実施されました。イベント当日、親子の日普及推進委員会が7月の「月間親子の日賞」と決定した下松市に証書と副賞を贈らせていただきました。自治体主導型の「親子の日」イベントが全国各地に広がっていくことを委員会は大切に期待しています。



▲ 下松市長に証書を手渡す俳優の元木行哉氏は、映画「OYAKO」の出演がきっかけで、今年下松市に移住



▲ 「くだまつ親子の日2019」のチラシ



▲ 「笑顔の写真展」チラシ

### ◆ もとぶおやこの日 \* 沖縄県本部町 / 7月28日

すっかり定着した感がある沖縄県本部町の「親子の日」は、今年も「もとぶおやこの日やろう会」の主催による楽しいイベントが行われました。実行委員会の方から「町民の多くは、7月の第4日曜日が『親子の日』ということを知っている」との話をうかがい、今後への期待が大きく膨らみました。



### ◆ おやこ料理教室&トモシヨク宣言

#### \* 神奈川県逗子市 / 7月28日

長年「親子の日」の支援をしてくださっているパパ料理研究家の滝村雅晴氏による料理教室が、逗子市市民協働課と神奈川県立男女共同参画センターの共催で行われました。この日逗子小学校に集まった12人のパパはオムライス作りを覚えて子ども達に出来上がった料理を振舞いました。



月間親子の日賞



2015年9月に国連サミットで採択されたSDG's (Sustainable Development Goals ~持続可能な開発目標~) の第17番目に位置づけられている「持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化」という目標に紐付ける企画として「月間親子の日賞」と「親子まつり」を新たな事業としてスタートいたしました。

「親子の日賞」受賞のみなさま

<p><b>第1回親子の日賞</b></p> 	<p><b>ビストロパパ</b></p> <p>パパ料理研究家の滝村雅晴さん率いる「ビストロパパ」は、「食べることは生きること、親子で料理を作るのはともに生きること」と明言。家族団らんの大事さを呼びかけています。「親子の日」応援プロジェクトとして「親子の日に、親子でオムライスを作ろう」作戦を実施。</p>	<p><b>第5回親子の日賞</b></p>  <p><b>お母さん業界新聞</b></p> <p>一人のお母さんが笑顔になればそこから笑顔が連鎖する。新聞作りを通じて母力(お母さん力)を上げ、子育てを楽しもうという志を持って活動するのが「お母さん業界新聞」です。「親子の日」の思いに寄り添っての応援事業は心強い限り。目標は、地産地消の「お母さん業界新聞」をつくること。</p>
<p><b>第2回親子の日賞</b></p> 	<p><b>愛知県児童総合センター</b></p> <p>遊びをとおして親子で楽しめる時間や空間を作る活動をしている大型児童総合センター。ことして13回目になるセルフタイマーで撮影するイベント「家族のうれしい顔」では会場を訪れる親子が楽しめる参加型の企画を実施。親子のコミュニケーションがますます広がっています。</p>	<p><b>第6回親子の日賞</b></p>  <p><b>そっか</b></p> <p>「子どもも大人もみんな一緒に足下(そっか!)の自然の中で、遊びと暮らしをつくる地縁コミュニティをつくろう」がモットー。また「私たちの子どもたち」を合言葉の一つとし、ともに成長を喜び合う社会の実現に向けての活動をたくましく実施中。</p>
<p><b>第3回親子の日賞</b></p> 	<p><b>アクトインディ株式会社</b></p> <p>育て支援事業を柱に、お出かけする親子の情報サイト「いこーよ」を企画運営するアクトインディ株式会社では、「いこーよ」から発信する様々な情報が多くの人たちに活用されることで、親と子が健康やかに成長していける社会の実現に尽力しています。</p>	<p><b>第7回親子の日賞</b></p>  <p><b>松本梨香</b></p> <p>アニメ、ポケモンの主人公「サトシ」の声優として活躍中の梨香さんは人と人を繋ぐ輪、愛、HAPPYからの笑顔で心がほっこりと温かくなる気持を「まんまる」という言葉に込め、ライブ型チャリティ活動を実施中。まっすぐな梨香さんの心情がストレートに伝わるプロジェクトです。</p>
<p><b>第4回親子の日賞</b></p> 	<p><b>山口県下松市</b></p> <p>映画「OYAKO」の製作がきっかけで繋がることができた下松市は、その後も「くだまつ親子の日」を継続的に実施。市民活動の一環として「親子の日」を応援していただくとともに、地域のコミュニケーションツールとして役立つなどの活用をしてくださっています。</p>	<p><b>第8回親子の日賞</b></p>  <p><b>本部町</b></p> <p>本部町に住む人たちが立ち上げた委員会によってコツコツと続けてきた結果、町の人たちの「親子の日」認識率は全国一。これからも、地域に根ざした温かく楽しい活動として積み重ねていって欲しいと願っています。</p>

親子写真まつり



◆写真展〈第1回 親子写真まつり～親子の数だけ親子の物語～〉プロの写真家と写真館協会の会員に参加を呼びかけ、〈第1回 親子写真まつり～親子の数だけ親子の物語～〉を実施。日本外国特派員協会(東京都千代田区)と、日本写真文化協会が運営するポートレートギャラリー(東京都新宿区)の2会場で展覧会を行いました。

★第1会場：日本外国特派員協会 7月6日～8月2日



▲展覧会の趣旨にご賛同いただいた25人の個性あふれる写真家の写真から伝わる親子の物語はそれぞれ感動的。「親子」という言葉が持つ意味の深さや広さを感じられる写真展でした。参加いただいた写真家すべてのみなさまと海外の写真家にお声がけいただきました公益社団法人日本写真協会のご尽力に心からの感謝をいたします。

★参加写真家：糸川耀史 / Everett Brown / Bruce Osborn / 桑原史成 / 熊谷正 / 坂田栄一郎 / 清水匡 / 高橋まゆみ / 高橋ミラ / 中村征夫 / 西川隼矢 / 野町和嘉 / HARUKI / ハービー・山口 / 樋貝吉郎 / 広川泰士 / 広川智基 / 安田菜津紀 / 横山泰介 / 吉竹めぐみ / Khandakar Anisur Rahman (バングラディッシュ) / Zaw Min (ミャンマー) / Nguyen Ba Han (ベトナム) / Mikel Flamm (タイ) / Jigmed Bayarmagnai (モンゴル) ※敬称略 順不同

★第2会場：ポートレートギャラリー 7月25日～31日



★一般社団法人日本写真文化協会の協力をいただき実施したポートレートギャラリーの展示会では、ブルース・オズボーンの親子写真とともに「親子の日」の応援写真館22店舗の親子写真を展示しました。



▲オープニングレセプションには海外のジャーナリストも参加

「東京写真月間2019」後援・協力事業



▲「親子の日」を応援してくださっている公益社団法人日本写真協会が主催する「東京写真月間2019」から後援をいただきました



▲オープニングギャラリーに参加したみなさまとの記念写真。日比谷花壇からひまわりのプレゼントが



国内／撮影会 写真展

◆ 1000人の写真展 ＊東京都新宿区

6月20日～24日

公益社団法人日本写真協会主催の「東京写真月間 2019」で実施された企画展「1000人の写真展」が新宿区にあるヒルトン東京内で行われ、「親子の日」も参加。作品を展示していただきました。



◆ 葉山マリンフェスタ会

＊神奈川県葉山町／9月1日

環境問題への啓蒙イベント「葉山マリンフェスタ」は、今年で11回目。おなじみの葉山公園と大浜海岸は多くの人達で賑わいました。



◆ 「親子で広げるフェアトレードの輪！

親子写真撮影会」＊神奈川県逗子市／7月15日

日本で3番目のフェアトレードタウンに認定され今年で3周年を迎える逗子市主催の記念イベントに招待され、「親子で広げるフェアトレードの輪！親子写真撮影会」を実施。海岸に集った15組の親子と楽しい時間を過ごしました。



◆ Hayama Yacht Festival

＊神奈川県葉山町／7月13日

2020年東京五輪に因んで、日本ヨット発祥の地葉山の葉山港に世界最強と言われる英国のヨットチームを招いてイベントが行われました。イベントに招かれた「親子の日」のスタッフは同会場で撮影会を実施。会場に集まった海を愛する親子の写真撮影をしました。



◆ 家族撮影会

＊東京都中野区／7月22日

ケンコー・トキナとハートフルフォトのジョイントイベント撮影会が中野区にあるケンコー・トキナスタジオで実施され、今年も写真家の熊谷正氏と高橋まゆみ氏の二人が会場親子の撮影をして「親子の日」の普及に協力していただきました。



海外／写真展

念願だったアメリカでの写真展が実現。3会場で展示された親子写真をアメリカの人たちに見ていただきました。展覧会終了後のアンケート集計によると、「印象に残った写真」という質問に対する回答で、ブルース・オズボーンの親子写真が上位に選ばれたそうです。

◆ 2019 Photoville LA / 6月20日～24日

ANNENBERG SPACE for PHOTOGRAPHY Photoville LA

Photoville LA への来場者数は約 28000 人。屋外の会場には連日たくさんの人が訪れ、来場者の生の声を聞くという貴重な経験を得ました。

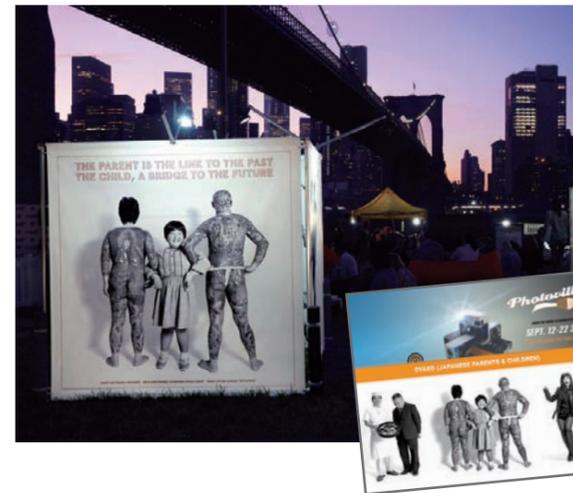


写真：ジョシュア・ワトルズ

◆ 2019 Photoville NYC / 9月12日～22日

UNDER THE BRIDGE IN BROOKLYN BRIDGE

来場者数は約 102900 人という超大型のフォトイベント。NYでホットな場所といえば DUMBO! と誰もが言うほどの地区で行われた展示会場には昼夜を問わずたくさんの来場者で溢れかえったそうです。



◆ PHOTOPLUS / 10月22日～24日

AVITS CONVENTION CENTER NEW YORK

アメリカ最大級ともいわれる写真や映像の機材関連見本市がNYで開催され、会場の一角に展示された親子写真にも注目が集まりました。



撮影：Soledad Lazzcano



海外 / 受賞 TV 新聞 情報誌

受賞



写真集「OYAKO」の発売を機に、2019年には、3回にわたる海外での写真展が実現。数々の栄えある賞もいただくことができ充実した年でした。



Tokyo International Foto Awards 2018



Moscow International Foto Awards 2019



International Photography Awards 2019



One Eyeland Photography Awards 2018



写真集「OYAKO」受賞



London International Creative Competition



Budapest International Foto Awards 2019



写真集「OYAKO」アマゾンで発売中！  
発売元：Sora Books 1,580円（税込）

☆写真集「OYAKO」の申し込みはこちらから↑



TV

\* 上海ネットTV局「一条 (Yitiao)」

ネット配信のTV番組「一条 (Yitiao)」の取材を受け、ブルース・オズボーンが中国の番組に出演しました。中国の人たちにも「親子」というコンセプトへの共感もいただき、視聴率が高かったという連絡をいただきました。



WEB

\* Photoblog hk



\* Webgramb



\* TOKYO 20\_20



\* PetaPixel



\* Format



\* American Photography



\* nippon.com

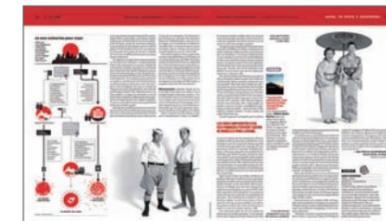


新聞・情報誌

\* Courier International



▼ Courier International 誌 (フランス) に掲載。その後誌のポルトガル語版にも転載



\* Japan Times



\* Kyoto Journal



\* Via



\* Any



\* Tokyo Families



\* Metropolis



\* Japan House Los Angeles



\* la Lettura





◆ ラジオ

\* InterFM897

「Lazy Sunday」 George Cockle と渡辺麻耶の番組に出演。湘南ライフや「親子の日」の話で盛り上がりました。収録スタジオで2人のツーショットをオズボーンが撮影し番組公式サイトにアップしたところ、開局以来最多のアクセスがあったそうです。



「Barakan Beat」

Peter Barakan がDJをつとめる番組「Barakan Beat」は、「親子の日」の情報をきめ細やかに発信。応援を続けてくださっています。



\* Blue Radio

「美日本写真」写真家の熊谷正さんが進行役をつとめる番組に出演。写真の話や親子プロジェクトについて、写真家同志のコアな話題について語り合いました。



\* Shonan Beach FM

「Daily Zushi-Hayama Friday」晋道はるみさんがナビゲーターをつとめる湘南の情報番組に出演。湘南に住む人々にとってだぶ馴染み深くなってきた「親子の日」に託す思いを改めて聴いていただきました。



\* FM 横浜

「SHONAN by the Sea」秀島史香さんの番組に出演。「親子の日」について今まで知らなかったリスナーさんにもたくさん知っていただくことができました。



◆ 情報誌

\* CAPA

写真情報誌「CAPA」の連載「名作誕生とその時代」に掲載されました



\* Shonan Time

湘南に住む親子写真特集号です。この撮影会がきっかけとなって海が好きな人たちにたくさん出会えました



\* THE PAPER

創刊したばかりのフリーペーパー「THE PAPER」には創刊号と1号に、「親子の日」とブルース・オズボーンのこれまでの仕事など幅広い内容の記事が特集されました



◆ 新聞

\* 産経新聞

「親子の日」の情報掲載



\* 琉球新報

沖縄での展示会と撮影会の情報を掲載



\* 毎日新聞北海道版

「親子写真まつり」の記事



◆ ウェブサイト

\* in-stalk



\* AEON



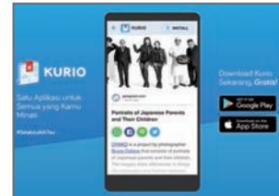
\* デジカメ Watch



\* Fathering Japan



\* kuoio



\* Rakuten Infoseek News



\* ニコニコニュース



\* goo ブログ



\* YAHOO! ニュース



\* 清里フォトアートミュージアム



\* envoi HAYAMA



\* Lifeit





- 1982 はじめての親子写真**
  - ・アナキーのボーカル仲野茂さんとお母さんの八重さんを撮影
- 2003 はじめての「親子の日」／100組の親子を撮影**
  - ・ブルース・オズボーンの自主企画として「親子の日」がスタート
  - ・「親子の日普及推進委員会」発足
- 2004 2回目の「親子の日」／100組の親子を撮影**
  - ・第1回「親子の日写真コンテスト」
- 2005 3回目の「親子の日」／100組の親子を撮影**
  - ・「親子の日」を記念日協会に正式登録
  - ・TV金沢の主催により金沢21世紀美術館で「親子」写真展
- 2006 4回目の「親子の日」／105組の親子を撮影**
  - ・愛知県児童総合センターで第1回目の「親子」写真展
  - ・第1回目「親子の日エッセイコンテスト」
- 2007 5回目の「親子の日」／100組の親子を撮影**
  - ・第1回目「親子大賞」スタート
  - ・能登半島地震の被災者親子写真を撮影しラポルト珠洲で展覧会
  - ・石川県珠洲市が、「親子の日」を公式制定
  - ・JCI フォトサロンで展覧会
- 2008 6回目の「親子の日」／100組の親子を撮影**
  - ・埼玉県越谷市のレイクタウンで「親子&仲間」撮影会と写真展
  - ・megaweb お台場で展覧会
- 2009 7回目の「親子の日」／100組の親子を撮影**
  - ・東京ビッグサイト「Photo Imaging Expo 2009」で撮影会とトークイベント
  - ・毎日新聞で「親子インタビュー」連載スタート
  - ・arp の「わたしのこえ」を第1回公式ソングと決定
  - ・阪急三番街40周年記念イベント「親子写真展」
- 2010 8回目の「親子の日」／104組の親子を撮影**
  - ・滋賀県米原市が、「親子の日」の制定を宣言
  - ・MOOMIN の「うまれたての瞳」を2010年公式ソングに決定
  - ・「親子大使」制度の導入
  - ・ブルース・オズボーンの写真「親子」が、International Photography Awardsを受賞
  - ・第4回キッズデザイン賞で入賞

- 2011 9回目の「親子の日」／110組の親子を撮影**
  - ・第1回被災地訪問プロジェクトで、福島県相馬市の親子を撮影
  - ・第2回被災地訪問プロジェクトで、岩手県の宮古市、大船渡市、釜石市、大槌町、田老町、宮城県の気仙沼市、南三陸町で親子撮影
  - ・CIPA フォトエイドの助成を受けた東日本被災地応援プロジェクト「I TIE ☆会いたい」スタート
  - ・滋賀県米原市で「水源の里まえばら OYAKO “かけがえのないもの” with ブルース・オズボーン」撮影会と写真展示会
- 2012 10回目の「親子の日」／110組の親子を撮影**
  - ・JR 米原駅のステーションギャラリーで「かけがえのないもの～東北で出会った親子たち～」写真展
  - ・南三陸町、仙台市、大槌町、田老町、相馬市で、第2回目「I TIE ☆会いたい」のワークショップ
  - ・静岡市美術館で「親子写真展～未来の私たちへの贈り物～」展示、ピーター・バラカンとトークショー
  - ・「東日本大震災復興支援ブックレット」を制作
  - ・10周年記念イベントとして映画「OYAKO」の製作をスタート
  - ・港区赤坂サカス内の赤坂ギャラリー、兵庫県南あわじ市で「I TIE ☆会いたい」の報告写真展
- 2013 11回目の「親子の日」／103組の親子を撮影**
  - ・映画「OYAKO」完成。外国人特派員クラブでプレス発表披露試写会
  - ・末広町3331、新潟放送、YMCA 横浜、JICA、葉山芸術祭で「I TIE ☆会いたい」の作品展示会とワークショップ
  - ・銀座和光で「親子写真」の展示会
  - ・韓国で行われた写真館の全国会議で「親子の日」のセミナー
  - ・第1回沖縄琉球補聴器主催の親子撮影会を那覇市の識名園で
  - ・山口県下松市が「親子の日」の条例化を宣言。映画「OYAKO」上映会と「親子写真」展覧会を実施。
- 2014 12回目の「親子の日」／105組の親子を撮影**
  - ・下松市山口県下松市と岩手県釜石市の協力で「I TIE ☆会いたい」の高校生合同ワークショップを下松市で実施
  - ・東京都写真美術館、逗子市なぎさホール、神奈川県庁舎、沖縄桜坂劇場で映画「OYAKO」の上映会
  - ・ネイチャーズベストフォトグラフィー・ジャパン授賞式（赤れんが倉庫）基調講演
  - ・東北生活文化大学高等学校「平和を想う日」で映画「OYAKO」上映と基調講演
  - ・一般社団法人日本記念日協会から「記念日文化功労賞」を授与
  - ・公開プレゼンイベント pechakucha night tokyo に登壇し「OYAKO」についてスピーチ
  - ・シンガポールの School of the Arts Singapore でトークショー

- ・映画「OYAKO」がベルリン国際映画祭（IFB）でベストドキュメンタリー賞を受賞
- 2015 13回目の「親子の日」／102組の親子を撮影**
  - ・逗子子どもフェスティバル、TAMA 映画フォーラム実行委員会、加茂・久代・小学校区人権啓発推進委員会、お母さん業界新聞主催「乾杯パーティー」などで映画「OYAKO」を上映
  - ・日本外国人特派員協会（FCCJ）で「親子」写真展
  - ・沖縄県立博物館・美術館、逗子文化プラザで写真展
  - ・第9回社会デザイン学会公開研究会で「親子の日の社会的な役割」を発表
- 2016 14回目の「親子の日」／104組の親子を撮影**
  - ・在シンガポール日本国大使館主催で「親子」写真展、撮影会、映画上映会を実施
  - ・TSUTAYA「夏休み宿題大作戦」に参加。「親子の日」の意味を伝える
  - ・BS ジャパン「ワタシが日本に住む理由」がブルース・オズボーンの特集
  - ・「親子の日」への高い評価を受けて東久邇宮文化褒賞を受賞
  - ・ヒマワリの花を「親子の日」のシンボルフラワーに決定

- ・写真集「OYAKO」を Sora Books から出版
- ・「OYAKO」の評価をえて、TIFA (TOKYO INTERNATIONAL FOTO AWARDS) の People - Family 部門で金賞を受賞
- ・TSUTAYA と毎日新聞のコラボで、連載記事「親子をつなぐこの一冊」開始
- ・第2回目の「親子の日」に本を贈ろうフェア」実施
- 2019 17回目の「親子の日」／105組の親子を撮影**
  - ・第16回目となるオリンパスギャラリー東京での写真展「親子の日2019に出会った親子」を開催
  - ・第16回目「写真コンテスト」、第14回目「エッセイコンテスト」、第13回「親子大賞」を実施
  - ・The Annenberg Space for Photography (LA) と Under The Bridge in Brooklyn Bridge Park (NY) で実施された写真展 Photoville に参加
  - ・第7回目となる「くだまつ親子の日」イベントを実施
  - ・第8回目となる日本写真館協会主催の写真コンテストで審査委員を努める
  - ・第6回目となる事業「親子の日には写真館へ！」を実施
  - ・第3回目となる写真展示「～HAYAMA TIME～親子の数だけ親子の物語」を葉山町森戸神社で
  - ・第7回沖縄琉球補聴器主催（協力：オーティコン補聴器）の親子撮影会を美ら SUN ビーチで。写真展覧会は沖縄県博物館・美術館で
  - ・毎日新聞「親子インタビュー」は11年目。66組の親子の記事を連載
  - ・第3回目の「親子の日」に本を贈ろうフェア」実施
  - ・公益社団法人日本写真協会主催「東京写真月間2019」で「1000の写真展」に参加
  - ・第1回「親子写真まつり」を日本外国特派員協会（FCCJ）と、写真文化協会が運営する「ポートレートギャラリー」で開催
  - ・親子写真撮影会を「フェアートレードタウン3周年（逗子市）」と「葉山ヨットフェス（葉山町）」で実施
  - ・第11回葉山マリンフェスタに参加して親子写真撮影会を実施
  - ・NYで実施された「PHOTO+」で「OYAKO」の写真を展示

- 2017 15回目の「親子の日」／105組の親子を撮影**
  - ・NHK WORLD Japan-easy II に、ブルース・オズボーンが出演
  - ・第5回沖縄琉球補聴器主催（協力：オーティコン補聴器）の親子撮影会を沖縄波の上みそら公園で
  - ・ふくしま「ふるさと写真の日」展を GLOCAL CAFE（東京）と福島コトひらく（郡山）とコラッセ福島（福島）で
  - ・日本外国人特派員協会（FCCJ）で、写真展「Fukushima Photographic Journey」
  - ・神奈川県葉山町森戸神社で「～HAYAMA TIME～親子の数だけ親子の物語」展示
  - ・イオンモール沖縄ライカムと、沖縄ジュンク堂で「ブルース・オズボーンの親子写真展 in 沖縄」展示会
  - ・TSUTAYA が、キャンペーン「親子の日」に本を贈ろう」をスタート
- 2018 16回目の「親子の日」／108組の親子を撮影**
  - ・DAC 主催の第6回「親子の日絆（KIZUNA）コンクール」の審査委員長
  - ・沖縄市プラザハウスショッピングセンターで写真展「親子の写真展 in 沖縄」
  - ・第6回目となる琉球補聴器主催の親子撮影会を首里城弁財天堂で
  - ・アミューズプラザ大分で写真展と撮影会を実施
  - ・「親子の日」プロジェクトを YAHOO! ニュースネットで紹介
  - ・新宿文化センターで公益社団法人新宿未来創造財団主催写真展「親子写真」



仲野茂・八重「親子」



金沢21世紀美術館での「親子」写真展



Barefoot Studio 撮影風景



被災地訪問プロジェクト



「親子の日」10周年集合写真



「東久邇宮文化褒賞」受賞



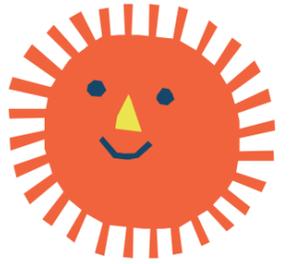
「親子の日」のぼり旗とオズボーン



シンガポールJCC写真展



# オヤコ 今、なぜ、



自分自身が長年取り組んでいるテーマだからかもしれませんが……。近ごろ、「親子」についての話題や、「親子」をモチーフにしたプロジェクトやイベントが増えている気がしています。なぜ今になって、「親子」が注目されているのでしょうか。

社会を支える仕組みがIT化され、日常生活のあらゆる場面でデジタル化が進んだ現代。人間関係が希薄にもなったと言われるからこそ、アナログの良さに心がひかれ、回帰することもあります。そんな温かみを求めて、人々は「親子」という言葉に敏感な反応をするのかもしれませんが。

科学や技術は急速な発展を遂げていますが、それらの恩恵を受け一方で、犠牲もつきまといます。こうした発展によって、豊かさを謳歌する人々がいる一方で、飢餓や貧困、差別などに苦しむ人々がいるのが現実です。人類が築き上げてきた文明は、必ずしも「命」を大切にすることとはいえなくなってきました。

私たちひとりひとりの「命」は、「親」から「子」へ連綿と繋がられてきた大切なものです。だからこそ、「命」の尊さを考えると、改めて「親子」というものに思いを馳せずにいられません。親から受け継いだ「命」を十分に活かす生き方ができる平和な社会、誰もが生まれたことを喜ぶ社会は期待できるのでしょうか……？

現代社会における「親子」についての疑問は、考えれば考えるほど大きく膨らんで、答えが見つかるまでに長い年月がかかりそうです。これからも「なぜ、今、オヤコ!？」と自問自答しながら、国境も、文化も、環境も違う親子と向き合う旅を続けて、写真を撮り続けていこうと思っています。

By BRUCE OSBORN

## ブルース・オズボーン プロフィール

<http://www.bruceosborn.com>

Art Center College of Design で、コマーシャル写真を専攻。1980年の写真展「LA Fantasies」をきっかけに、日本での活動を本格的に開始。ボストン子供の博物館の企画展「TEEN TOKYO」では、東京のティーンエージャーを撮影して展示。ボストンのMCET制作、インターネットを使つての双方向教育番組では8回にわたってディレクターを務め、アメリカの高校生にむけて「生の日本情報」を伝えた。

1982年から始めた「親子」写真の撮影は今年で36年目になり、撮影した親子の数は8000組を数える。2003年より7月の第4日曜日を「親子の日」と提唱したオリジナル。「親子」をテーマにした写真展は、外国人特派員クラブ、横浜ランドマークタワー、山梨県立美術館、金沢21世紀美術館、愛・地球博園内愛知県児童総合センターなど、各地で数多く開催。2016年に在シンガポール日本国大使館からの招待を受け親子写真の展示会と撮影会を実施。「親子の日」公式プロジェクトとして被災地訪問を実施。写真を通じて子どもたちのネットワークを構築するために立ち上げたプロジェクト「TIE ☆ 会いたい」では、被災地の子どもたちを中心に各地でワークショップを実施。

「Flying Object」「風」「ビーチコミング」「Flower Stand」「HAYAMA TIME」など、数々のテーマに取り組んでいる。ライフワークの「親子」シリーズは、ソーシャルな活動としても期待されている。

### <写真集・著書>

- 「親子」デルポ出版
- 「Oyako」INKS INC. BOOKS
- 「KAZOKU」角川書店
- 「ごめんなさい」日本標準
- 「反バンビ症候群」ヒヨコ舎
- 「親馬鹿力」岩崎書店
- 「この国の環境」アサヒビール・清水弘文堂書房
- 「OYAKO」Sora Books

